

# 平成 28 年度 家庭学習の手引き

～家庭学習への取り組み方～

P D C A サイクル

P . . . PLAN (計画)  
↓

D . . . DO (実行)  
↓

C . . . CHECK (振り返り)  
↓

A . . . ACTION (再構成)



年 組 番 氏名

木曾町立木曾町中学校

# 家庭学習のすすめ



中学校の学習 = **【授業】50分×6** + **【家庭学習】15分×義務教育学年**

(1) なぜ家庭学習が大切なのかな？ **風よ吹け!** で自分の進路に向かおう!

## か ぜ よ ふ け

**【感動力】自分から自分で自分のために学ぶ「一生勉強 一生青春」(相田みつを)**  
学ぶことで世界は広がり、生き生きと生活できます。家庭学習は、生涯を通じて学び続け、成長し続ける生き方の基礎となります。

**【精神力】課題をやり遂げる**  
部活動や生徒会の仕事等との両立は大変です。しかし、やらなければならないことから逃げずにやり遂げる忍耐力や努力は生きる力になります。

**【予習力】予習で授業が3倍面白い!**  
授業の先取りをしておく、授業内容が驚くほどよく解り、授業での発言も増えます。その結果、授業がどんどん面白くなるのです。

**【復習力】授業で学んだことを、自分のものにする**  
授業で解ったことを「自分で確実にできる」ようにするには、復習が必要不可欠。繰り返し解いて、定着させておくことが大切です。

**【継続力】「少しずつ」の積み重ねが大きな力に**  
1度にたくさんのことを習得することは困難です。部活動も、毎日の練習があつてこそ「本番」の力になります。学習も同じです。

(2) 学習時間の目安 (15分×義務教育学年)

①1学年 105分(1時間45分)以上

【例】 国語・数学・英語各30分+苦手教科15分

②2学年 120分(2時間)以上

【例】 国語・数学・英語各30分+社会か理科15分+読書15分

③3学年 135分(2時間15分)以上

【例】 国語・数学・英語各40分+社会か理科15分(朝読書で10分)

[※1] 長期休業中の学習時間は別です。[※2] 3学年は、入試勉強として+1~2時間を加える必要があります。

(3) 学習習慣を身につけるために

①学習に集中できる環境をつくろう

- ・机の上に余分なものを置かない。(不必要なものはしまう)
- ・テレビを消す。(スイッチを切る)

②時間を決めて取り組もう

- ・上の【例】のように、何を何分やるのか、自分に合った時間で区切ってやる。
- ・50分~1時間で10分間の休憩をとる。

③自分に合った内容とやり方でやろう

- ・「形」ではなく、中身を重視。自分の力を伸ばす「質」と「量」を考えて。
- ・「作業」にしないで、「やってよかった」と自分が思えるものに。

【国語科家庭学習の手引き】～社会に出たときに活用できる国語力を身につけよう～

1 「漢字1ページノート（提出ノート）」の取り組み方

漢字は1日1ページ毎日練習するのが原則です。漢字の読み書きや漢字を使いこなす力を身につけましょう。ただし、家庭学習量を考え、月曜日～金曜日までの5日間とします。

(1) ノート → 150字マスノートを各自で用意して下さい。200字以上でもよい

です。が、細かいと雑になってしまう人がいます。雑にならないように書きましょう。

(2) 内容 ※詳しくは別紙参照

- ① 漢字を上下二段に18種類の書き取りすることと、短文づくり（成文、品詞、活用種類、活用形記入）に取り組む。
- ② 漢字は訓読みの漢字を書くか、音読みなら熟語を練習する。  
例 ○成る ○成績 ×成
- ③ 練習漢字の一つにのみ、横に読みがなを振り、文字の「はね」に赤丸を付ける。
- ④ 「はね」の数をその下のマスに記入。
- ⑤ 最後の1行に短文を作って書く。まずは短い文でよい。  
分からないものには「？」をつけてよい。  
1年 = 主語述語を使って一文を作る。  
2年 = 一文を文節、単語に区切り、  
成分名（主語～独立部まで10種類）  
品詞名（動詞～助詞まで10種類）  
を書き入れる。  
3年 = 2年の内容に加え、  
・動詞 = 活用の種類、活用形  
・形容詞、形容動詞 = 活用形  
・助動詞 = 働き、活用形

	成	せい せい
	績	せき せき
	1	はねの 数
主語	雨	名詞
	が	助詞
述語	降	動詞 五段 連用形
	つ	
	た。	助動詞 過去 終止形

2 読解スキル（ノート）

毎週水曜日の課題

- ・スキルのノートは後日国語科から配布します。

3 新聞読み書きノート

毎週末の課題

- ・新聞のコラム欄を切り取り、はる。
- ・信毎「斜面」中日「中日春秋」朝日「天声人語」読売「編集手帳」
- ・全文を書き取る。改行など、原稿用紙の書き方と違うが、この課題ではコラム欄の通りに書き取る。  
1年 = 書き取りと感想書き  
2年 = 書き取りと自分の体験、経験と照らし合わせた感想書き  
3年 = 要約文、自分の意見、体験を交えた理由、根拠

# 社会科

## 家庭学習の手引き

社会科の学習は、ノートへの記述を振り返ったり、問題集を何度も復習したりすることが大切です。そのためにも、問題集を使い「提出ノート」での学習を行いましょう。

### 1. 提出ノートのやり方について

以下のルールに従って取り組んでいきます。

- ①社会科では、ノートを2冊用意します。1冊は授業用（A4サイズ）に、もう1冊が提出用（A4かB5サイズ）になります。2冊のノートは別々に使用します。表紙に社会科提出ノートと書き、学年、組、氏名を明記しておきましょう。
- ②提出ノートは教科担任に指定された日に必ず提出します。各学年で使用する問題集の種類が違う場合がありますので注意してください。
- ③問題集の解答欄へは直接記入しません。なぜなら、一度記述してしまうと繰り返し問題集に取り組むことができなくなるからです。

### 2. 提出ノートへの記述する際のポイント

○次に提出ノートへの記述例を示します。

☆やり方の具体。

- ① ページの上に日付、問題集のどこをやったかを書く。
- ② まずは自分の力で問題に取り組む。分からない問題は、教科書やノートを見ながら解答する。その際、教科書を見て答えた問題には、番号に○印を付ける。
- ③ 必ず答え合わせをする。できた問題には○をつけ、間違えた問題は何を間違えたのか見直し、正しい答えを必ず記入する。

○間違えたときに原因をはっきりさせることが一番大切です。たとえ漢字の間違いでも、テストでは「あっ、間違えた。」で済まない。まったくわからなかった問題（特に記述問題）は、解答を書き写すのも良い。書きながら考えられるし、どの箇所がわかっていなかったのか確認もできる。

○どうしてもわからないことは、必ず先生に聞こう。あやふやなままにしないこと。

○自分がわかること、わからないことをはっきり知ることが大切です！

☆提出ノートへの記入例

4 / 2 5 「社会の自主学习」 P.14

① (1) ① インド ② シンガポール

③ フィリピン ④ ロシア連邦

(2) A ヒマラヤ山脈 B ガンジス川

C 朝鮮半島 教科書などを見て答えた問題の印

(3) ① 島国 ② 大国

内陸国

(4) ヨーロッパの国々がアフリカを植民地とし、  
緯線や経線を利用して引いた境界線が、今の国境  
のもとになったから。

←「日付」と  
「どこをやったか」を書く。

←必ず、答え合わせをする。  
間違えた問題にはチェックをして、正しい答えを書く。

←答え合わせは赤ペンで行う。

←教科書などを見て答えた問題には印を付ける

←見やすさも大切です。記述は丁寧な字で行いましょう。

○提出ノートは自分自身のためにやります。出すためにやるのではありません。その所を間違えないように！！

※ 3年生は、「社会の新研究」も自分でどんどん進めていきましょう。



# 数学科

## 家庭学習の手引き

数学の学習は、繰り返し、何度でも練習することが大切です。そのために「提出ノート」での学習を行います。昨年度までと一部変更したところもありますので、ルールをしっかりと確認しましょう。

### 1. 提出ノートのやり方について

以下のルールに従って取り組んでいきます。

- ①数学では、ノートを2冊用意します。一冊は授業用に、もう一冊が提出用になります。2冊のノートは別々に使用します。
- ②提出ノートは毎週の月、水、金曜日の指定された日に必ず提出します。各学年で使う問題集（「数学の学習」）が指定された時にはそちらをやります。
- ③提出ノートを提出する場合は、1ページを基本とします。問題数が多かったり少なかったりする場合は、自分で1ページに収まるように工夫しましょう。それも大切な力です。

### 2. 提出ノートをやる際のポイント

○次のページの例を参考にやっています。1ページが原則ですが、それ以上やっても構いません。

○内容は自分で決めます。基本的には授業でやっている内容に関するものが良いですが、基礎基本の計算をやるのも良いです。同じ問題を繰り返しやることも力となります。

1年生は問題集が届くまで、小学校の計算ドリルを復習して下さい。

○やり方の具体。

- ①ページの上に日付、どの問題集のどこをやったかを書く。
- ②まずは何も見ずに問題を解く。わからない問題にはあまり時間をかけなくてもいい。
- ③必ず答え合わせをする。できた問題には○をつけ、間違えた問題は何を間違えたのか見直す。  
考え方ややり方が違っていったのか、計算間違いなのか、どこで計算を間違えたのか等、  
原因を突き止める。←ここがポイント！
- ④間違えた問題をやり直す。

○間違えたときに原因をはっきりさせることが一番大切です。たとえ計算間違いでも、「あっ、間違えた。」で済まさない。また、全然わからなかった問題は、解説を書き写すのも良い。書きながら考えられるし、どの箇所がわかっていなかったのか確認もできる。計算がとばしてあるところは実際に計算をし、問題を確実に解く。

○どうしてもわからないことは、必ず先生に聞こう。あやふやなままにしない。

○自分ができる（わかる）こと、できない（わからない）ことをはっきり知ることが大切です！

# ☆提出ノート の例 (1 ページ分)

4 / 1 0 「問題ノート」 P.14

(1)  $-3 + 2 = -1$       (2)  $-2 + 6 = 4$

(3)  $-4 + 4 = 0$       (4)  $-5 + 8 = -13$  ✓

(5)  $4 - 7 = -3$       (6)  $-6 + 0 = -6$

(7)  $-1 - 6 = -7$       (8)  $5 - 5 = 0$

(9)  $-6 + 0 = -6$       (10)  $4 - 9 = -5$

やり直し

(4)  $-5 + 8 = 3$

←「日付」と  
「どこをやったか。」を書く。

←必ず、答え合わせをする。  
答え合わせが自分でできる問題をやる。

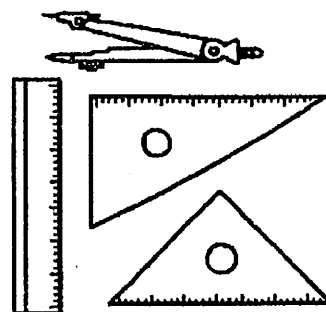
←問題をたくさんできる人はたくさんやろう。自分の力に応じて問題数を設定しよう。ただし、こちらから見て問題が少なすぎたり、簡単すぎる場合は評価の対象となりません。

←必ず、間違えた問題はやり直す。

←見やすさも大切です。

○提出ノートは自分自身のためにやります。出すためにやるものではありません。そこの所を間違えないように!!

※3年生は、提出ノート、数学の学習に加えて、「整理と対策 (整対ノートW)」も自分で どんどん進めていきましょう。





## 理科 家庭学習のポイント

### 予習より 復習しよう くりかえし

家庭学習というと、ドラマやアニメの中でも「予習しておかなくちゃ！」といった場面がありますが、理科では必要ありません。理科では授業のはじめに、「問題」・「課題」を提示し、観察・実験を行い、今まで学習した内容とつなげていくことで答えを出していくのが基本的な流れになります。教科書にはすべての答えが書いてあります。答えを知っていてクイズに参加してもつまらないでしょう。それ以上に、問題や課題をどのように解決するかを考える時間が無駄になってしまいます。この「問題を解決するために考える」力をつけることは、これからのみなさんに、とても大切になります。

しかし、復習はしっかりとしましょう。授業の中で「わかった」つもりでいても、2、3日すると忘れてしまうものです。これは人間ならしかたのないことです。「3日前の夕食のメニューは？」と問われて、すぐに思い出せないでしょう。ですから、授業があった翌日から2日後くらいに、学習した内容を復習することがとても大切になってきます。この「忘れかけているけれど、まだ覚えていることが多い」時に復習をすることで、一時的な記憶が長期的な記憶へ変わっていくのです。

復習の方法について、きちんと授業に出席していれば、問題集を解くことで十分です。ただ、ここで大切にしてほしいことは、間違えたところがどこなのか分かるようにしておくこと、間違いをきちんと直して理解すること、そしてくり返し問題を解き、前回、間違えた問題が解けるようになっているか確認をすることです。

わからないことがあれば、遠慮なく先生たちのところへ質問に来てください。学習内容はもちろんですが、学習の方法については人それぞれ得意・不得意もありますので個別にアドバイスします。

最後に、復習をするためには、集中して授業を受けることが大前提です。準備物を整え、気持ちを切り替えて理科室へ来てください。中学の学習は簡単なことばかりではありませんが、がんばっていきましょう。



## 英語科 学習のポイント

### 1 (教科書に出てくる) 単語や英文を繰り返し読む・暗唱する

声に出して繰り返し読むことが大切です。特に英文は、正確に読めるまで繰り返し練習する。正確に読めるようになったら、上げ下げやつなげて読むところなど授業でやったことを思い出して練習するとよい。英文は、徐々にテキストから目を離して読むようにするなどして、暗唱にもチャレンジできるとよい。教科書に出てくる英文・会話文や自分で書いたスピーチ文など、家庭学習で覚えてきたものを、授業でテストしたり、発表したりすることがあるので、しっかり取り組もう。

### 2 教科書に出てくる単語や英文を繰り返し書いて覚える

単語も英文もバランスよく練習する。できるだけ、その日の授業で習った単語や英文を覚えること。ただ書き写すのではなく、意味も合わせて書いて覚えたり、練習した後に単語を見ずに書いて確認したりするなど、覚える工夫をすることが大切。また、英文は語順や文法も合わせて覚えるとよい。新しい単語や英文がどんどん出てくるので、時間をあけて繰り返し練習しよう。

### 3 ワークブックの問題を解いてわかっているか確認する

ある程度単語が書けるようになり、英文も覚えたら、ワークブックの問題を解く。必ず答え合わせをして、間違えたものは覚えるまでノートへ繰り返し書くなどする。ワークブックには直接書き込みをせず、「提出ノート」に書く。答えのみを書くのではなく、英文も合わせて書くと文法も一緒に覚えられる。やり直しを大切にしよう。テスト前には、もう一度同じ問題を解き、一度覚えたことが頭に入っているか、できなかったことができるようになっているか、確認する。

※3年生は、教科書以外の英文も多く読むこと。特にテスト前は、『整理と対策』を使って、長文問題にチャレンジする。わからない単語が出てきたら意味を調べてもよい。間違えた問題はなぜ間違えたか考え直すようにする。3学期に入ると入試対策問題に取り組むことが増えるが、その時に「時間をはかって解く」こともやるとよい。

\* 授業用ノートと別に提出用ノートを用意する。繰り返し書いて練習するためには、英語がバランス良く書ける罫線が入った英語ノートを使うとよい。

\* 家庭学習は「提出ノート」または教科担任の指示があったものを毎日行う。

\* 何をやっていいかわからない、問題が解けない、英文の意味がわからない…など困ったことがある場合はそのままにせず、教科担任の先生へ必ず質問に行くこと。

\* 家庭学習の取り組みは、教科の成績にも反映される。毎日出すことはもちろん、自分の力になる内容に取り組むよう頑張ろう。